

〈特別企画〉

構成：飯沢未央、細谷祥央、切江志龍、服部円

マンガ研究者・小川剛さん赤ペン企画

「腐敗」をテーマにキャラを制作してみよう！

■原案

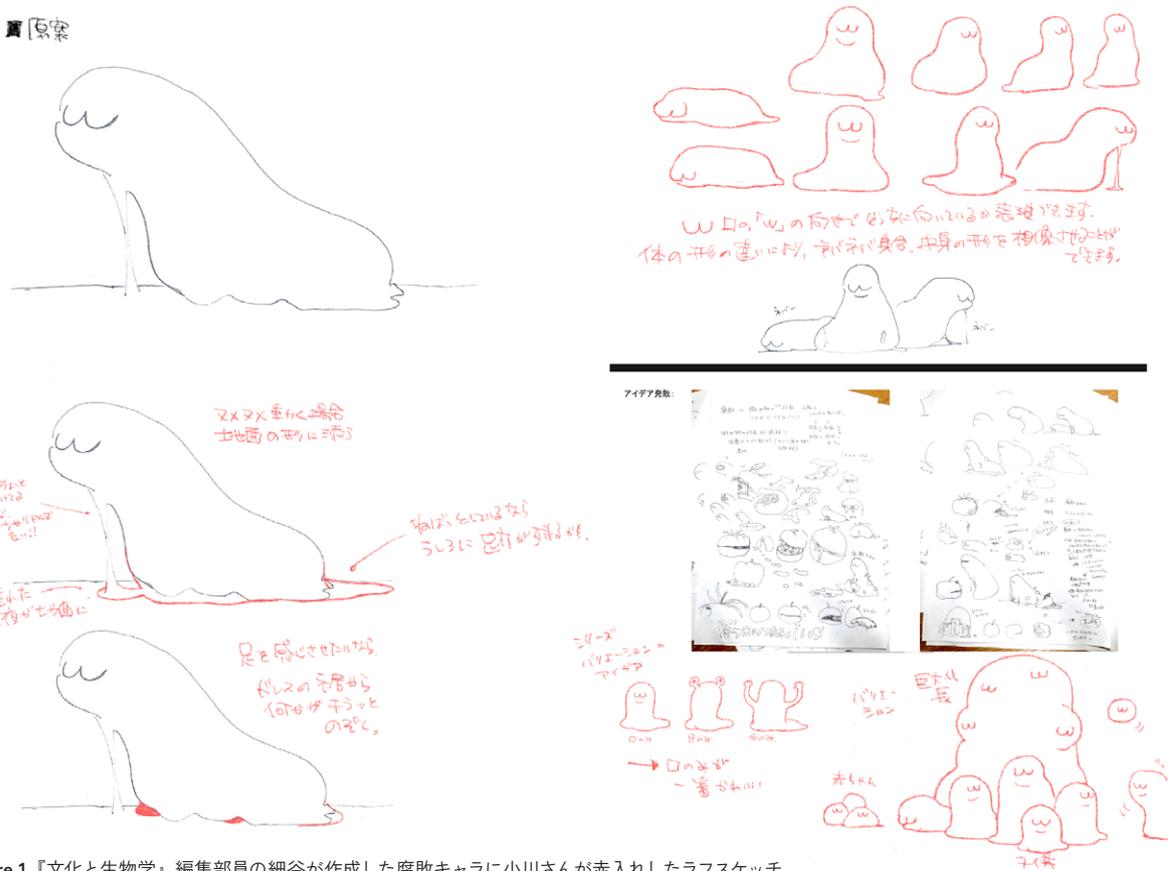


Figure 1. 『文化と生物学』編集部員の細谷が作成した腐敗キャラに小川さんが赤入れたラフスケッチ。

今号の特集テーマである「キャラと腐敗」が掛け合わさった事柄を探るべく、編集部では「腐敗」をテーマにキャラを制作する企画を考案した。魅力的な「キャラ」をつくるポイントとは一体何なのだろうか。そこで京都精華大学でキャラクターデザインを教える、マンガ研究者・小川剛さんの協力のもと、『文化と生物学』に関わりのある3名のクリエイターがデザインした「キャラ」に赤入れしてもらいながら、キャラ制作のコツについて教えてもらった。

キャラの制作者は『文化と生物学』0号に登場したYouTubeチャンネル『ゆるふわ生物学』メンバーのわけわかめさん、生物学をバックグラウンドに多彩な作品を生み出すアーティストの石橋友也さん、『文化と生物学』編集部員である細谷祥央の3名。みんなに愛される「腐敗」キャラ

を誕生させるべく、まずは「腐敗」をテーマに思い思いのキャラクターを制作。小川さんからより魅力的な「キャラ」とするための意見をもらった。そのフィードバックを受けてキャラクターを清書し、完成となる。果たしてどんな「キャラ」が誕生するのか!? ぜひご覧いただきたい。

キャラ名：かびみかんさん、作者：わけわかめ

ひとつめはYouTubeチャンネル『ゆるふわ生物学』メンバーのわけわかめさんが作成した、みかんをモチーフにした「キャラ」。誰も気づいたら腐っていたみかんに触れ合ったことがあるのではないのでしょうか。



名前:かびみかんさん

性格:世を憐む。後ろ向きな性格。カビたことによりもう他のみかんとはともにいることはできないと頭では理解しているが深い悲しみにくれている。破壊衝動はなく、ただただ鬱々としている。もしもきちんとしていれば違う今があったのか、それともどうしようもない運命のイタズラなのか。

お誕生日:11月3日(みかんの日)

サイズ:みかん一個分。100g

モチーフ:最も身近な腐敗である、青かびが生えてしまったみかんです。箱で買ったみかんの中にカビたものがあるといつそのみかんの気持ち?を想像して申し訳なくなります。しかし、その鬱々としたカビは他に伝播するので別にさせていただきます。

Figure 2. わかめさんが作成した腐敗キャラのラフ案。

小川さんコメント

冬、みかん箱を開けた時、発見してしまったあの切なさ。そして「腐ったみかんの方程式」のように、排除されるべき運命であるもの悲しさ。誰もが経験したことがある、あの記憶をキャラ化した、共感性の高い秀作です。

◎ビジュアルの工夫として

色の対比:素晴らしい!元気だった頃の鮮やかなオレンジ色と腐敗が進んだ青カビ色。しかしカビの色ってちょっとキレイって思ってしまう鮮やかなターコイズブルー色とも言え毒々しさの中に美しさを感じてしまいます!

白目と黒目:白黒反転になっている事で、ダークサイドに落ちたような印象を。悪に染まった感じ、無力感すら漂わせる好例ですね。

口もと:腐るを端的に込めるなら、大きく裂けた口、黒い唇に不揃いな歯は効果的。一方コメントにあった「破壊衝動はなく鬱々としている」を強調するなら、左のカビ半分は無表情。右のみかん色の方には悲しみや憂いを感じる口元にして見るというのも一考かも。

小川さんからのフィードバックには表情のバリエーションが多数記載されていました。

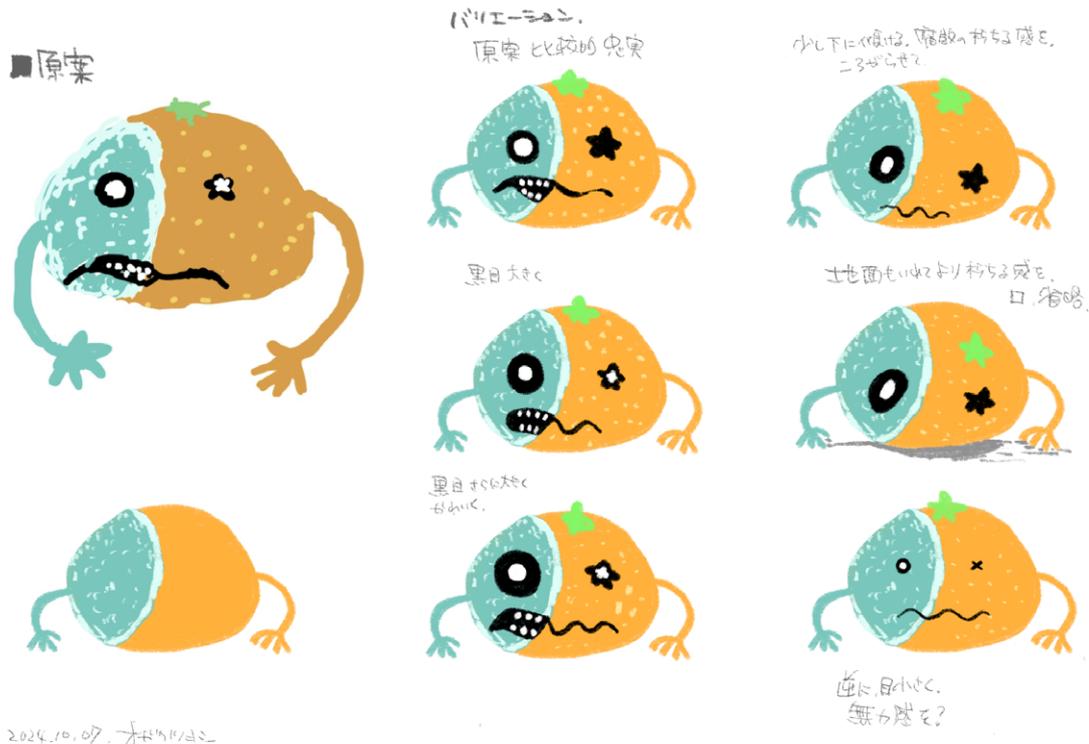


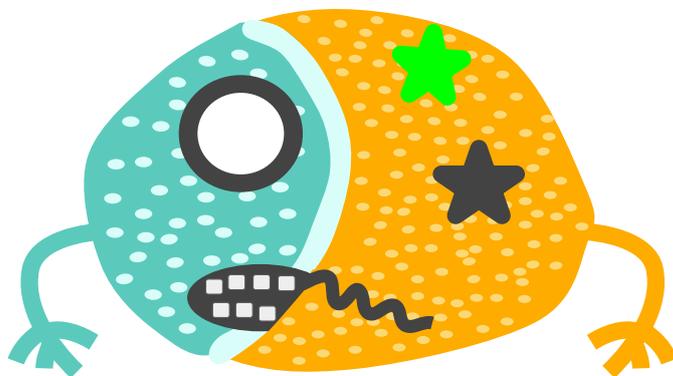
Figure 3. 小川さんによる「かびみかんさん」への赤入れ。

アドバイスを受けてブラッシュアップした「キャラ」が完成しました。

かびみかんさん

お誕生日: 11月3日(みかんの日)
世を憐む, 後ろ向きな性格。

カビたことによりもう他のみかんとはともにいることはできないと頭では理解しているが深い悲しみにくれている。



破壊衝動はなく、ただただ鬱々としている。

もしもきちんとしていれば違う今があったのか、それともどうしようもない運命のイタズラなのか。

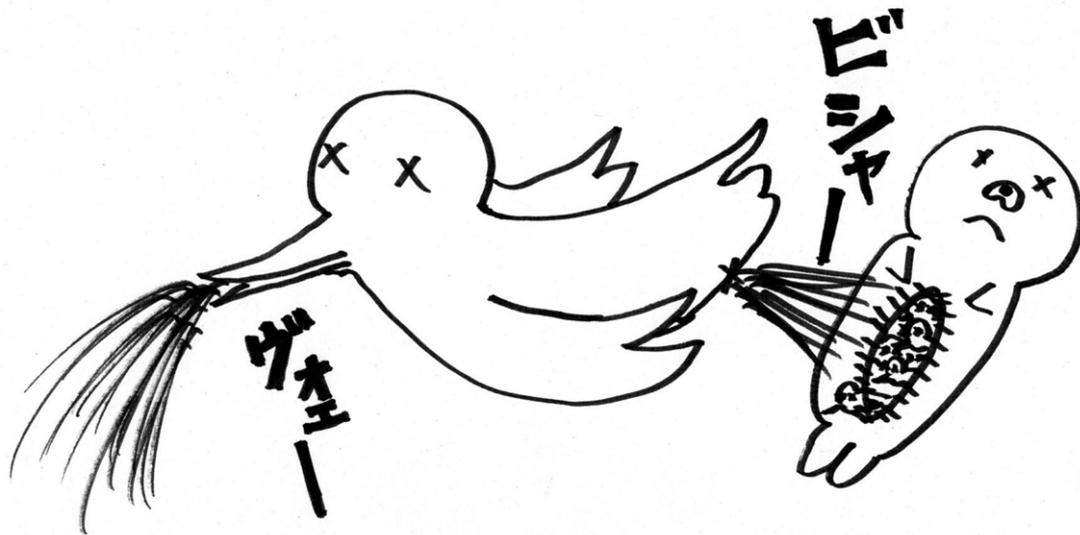
Figure 4. わかめさんが作成した「かびみかんさん」の完成形。

キャラ名：キビヤックん、作者：石橋友也

アーティストである石橋友也さんが作成したのは知る人ぞ知る珍味として名高いキビヤックをモチーフにした「キャラ」です。勇気のある方は、ぜひネットで実物の画像を検索してみてください。

悪臭発酵食品 キビヤックん

アザラシ(死体)のお腹の中で発酵した海鳥(死体)がガス爆発の勢いによって登場！
口と肛門から噴出する液体はドロドロになった海鳥の内蔵。



※キビヤックとは、内蔵を抜いたアザラシの腹に海鳥を詰め込み、地中に数ヶ月～数年埋めることで発酵させる北極圏の発酵食品。悪臭を放つが、病みつきになる人も多いらしい。

Figure 5. 石橋さんによる「キビヤックん」のラフ案。

小川さんコメント

まず、わたしはキビヤックという発酵食品を知りませんでした。読んでびっくり！極地の生活の知恵とはいえ、こんなことが現実にあるかと衝撃を受けました！！そのショックをそのままキャラ化したインパクト抜群のキビヤックんですね！

キャラやイラストの良いところは、写真では情報が多すぎたり、グロテスクすぎて見せられないことをオブラートに包む効果があります。記号化したりゆるくすることで本質は失う事なく事実を伝えることができますが、その手法がピタッとハマっていると思います。

この手のタイプのキャラクターは、写実的なうまさやリアルな表現は不要です。むしろゆるいほうがいい。ここからもっと精度を上げるとすると、筆文字のロゴマークを作る時の手法のように、同じ人が何枚も描いてみて、部分的にでも良いところ取りをするやり方か、複数人に同じテーマで作画してもらって偶然でもいいので秀逸なものが生まれるのを待つというのが得策かと思います。

小川さんによる可愛らしいアザラシの描写とお腹からでてくる海鳥のギャップに驚きます。

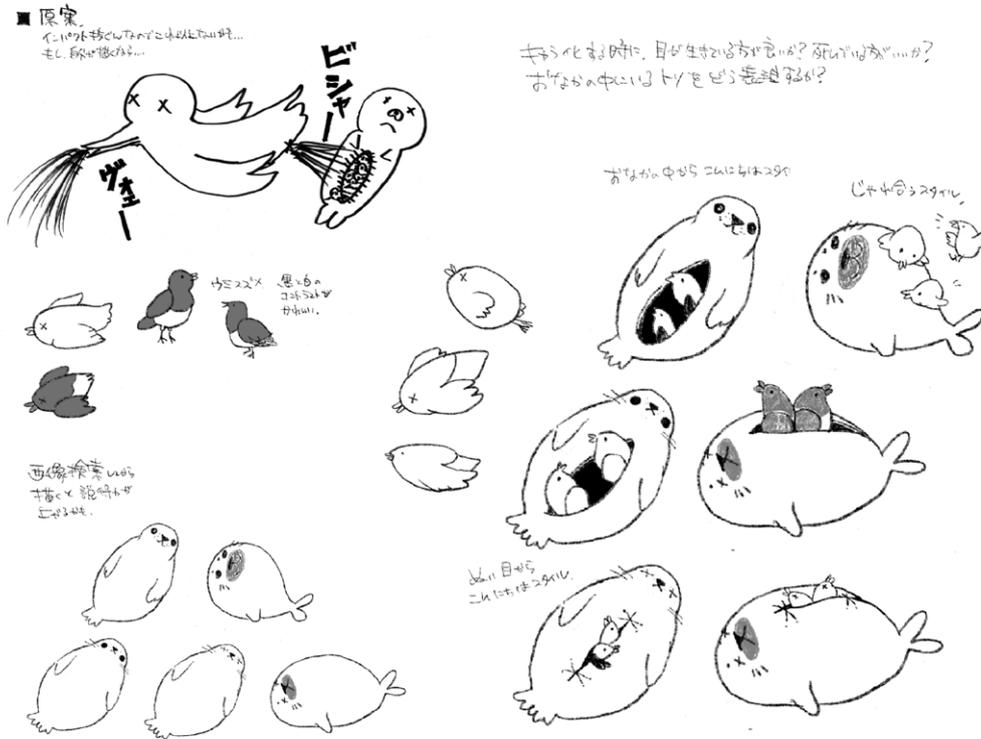


Figure 6. 小川さんによる「キビヤックン」への赤入れ。

フィードバックを受けて完成した「キャラ」。内臓の描写が少しマイルドになったかも？



先生の赤ペンイラストを参考に、「ひと目で鳥とアザラシで分かること」「ドロドロの記号化」を意識して描き改めました。またキャラクターとしてのキーカラーを意識してみました。

Figure 7. 石橋さんが制作した「キビヤックン」の完成形。

キャラ名：腐敗ちゃん、作者：細谷祥央

『文化と生物学』編集部員の細谷祥央が作成した「キャラ」はその名も「腐敗ちゃん」。腐らせる“何か”をビジュアル化するために考えた次ページのラフスケッチもあわせてご覧ください。



名前：腐敗ちゃん

色：白

特徴：白無垢ねっとりしたボディに、かわいいおくち。色々なものにとりついて腐敗させちゃうよ。

モチーフ：腐敗

Figure 8. 細谷による「腐敗ちゃん」のラフ案。

小川さんコメント

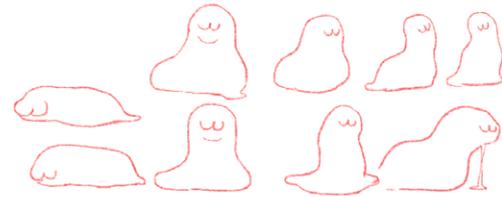
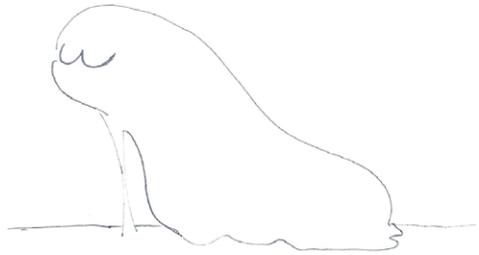
深い！の一言です。腐敗ちゃんに行き着くまでの創作プロセスを共有していただけた事でこちらも追体験できました。アイデアを考えるって「！」ピコンって閃くというよりは、コロコロ転がしながら、あっちに行ったりこっちに来たり、誰かと話している時に繋がったり、と、アメーバみたいに増殖していく方が面白いものが生まれやすいと思います。そして、後から見返したら、再発見できるものがあるって、これが良いかもって納得するような感覚があると思うのですが、腐敗ちゃんはまさにそのプロセスを通して成長、増殖していったキャラだと思います。見事！

思考プロセスやアイデアに厚みがあるので、結果的に「腐敗→胃の中→ゲロ→ねばねば」とか「ミクロのつまみ食い」「食べること→チェストバスター→ハムハムの可愛い口」など、的を射たキーワードが突き刺さってきますね。さらに最終的には『文化と生物学』の視点から「腐敗」のカルチャー的な要素を託すまでに発展し、風刺や皮肉も内包した、いい意味で「おぞましい」キャラクターが誕生！だからこそ、白無垢であることや目がないこと、可愛らしい口元が強烈なギャップを生み、惹きつけられてしまいました！僕には、途中から腐敗ちゃんが動いて見えました。誰に気づかれるでもなく、ヌルヌルと地面を這い、音も立てずにモノも人も飲み込んでしまう。気づいたときにはもう遅く、辺りには何も残っていない世界に……。こんな世界にならないように、と無言の主張をする腐敗ちゃん。秀逸ですね！

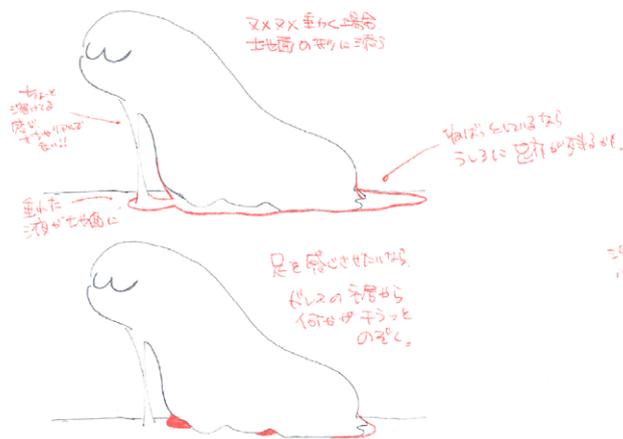
様々なモノを飲み込んで変化するという特徴から、考えると例えば、表情やしぐさ違いをたくさん作ったり、通常は白無垢だけど、感情によって色が変わったり（フルーツ大福の中身が変わってほんのり色がつくみたいなの？）。また兄弟や家族などバリエーション違いで腐敗ちゃんをシリーズとして展開させるというのもおもしろいかもしれません。

小川さんによる赤入れは質感だけでなく、口の向きや色味まで細かなアドバイスがありました。

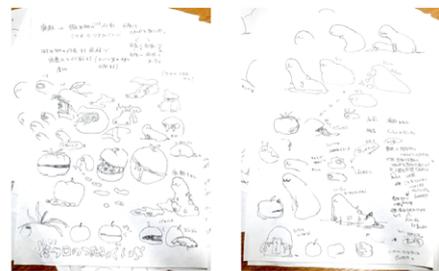
■ 原案



口の「w」の向きで気持ちの良さを表現する。
体の形の「w」はF、ネバネバ具合、自身の形を想像して描く。



アイディア集



■ 彩色について

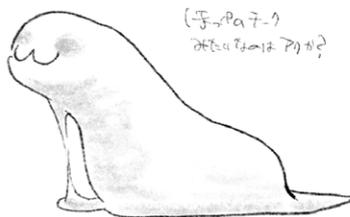
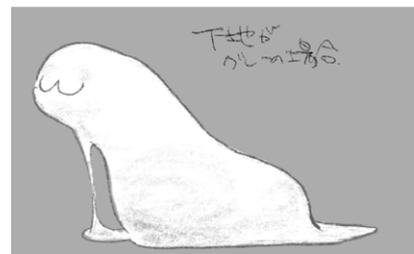
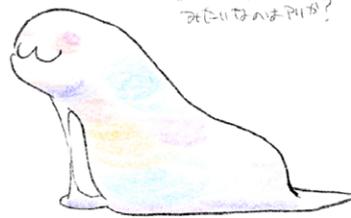
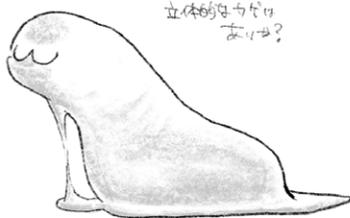
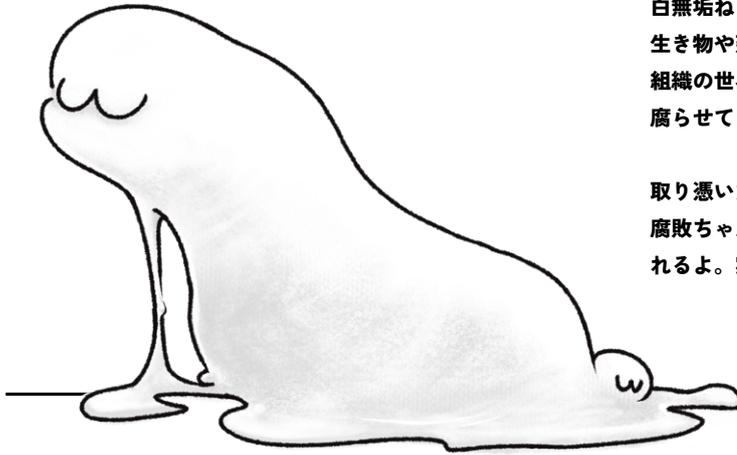


Figure 10. 小川さんによる「腐敗ちゃん」への赤入れ。

腐敗ちゃん



白無垢ねっとりボディにかわいいおくち。
生き物や建物にはもちろんのこと、精神や
組織の世界にも取り憑いて、時間をかけて
腐らせてダメにしちゃうよ。

取り憑いたものを食べて大きく成長した
腐敗ちゃんから、小さい腐敗ちゃんが生ま
れるよ。実はウジくんのことが好き。

イラスト：細谷祥央

Figure 11. 細谷が制作した「腐敗ちゃん」の完成形。

小川さんによる総評

三者三様どれも“腐敗愛”に溢れた力作で驚きました。キャラクターを生み出すためには、そのモチーフに対する「愛」が不可欠だと思いますが、どのキャラも作者のいい意味での偏愛が心地良かったです。一見すると眉をひそめるような内容も隠されたメッセージや魅力が後から伝わってきて、知れば知るほど納得。思わず「へー！」と唸ってしまいました。モチーフに対する知識と熱量がなせる技だと感激しました。

思えば、至る所にキャラクターがいる日本。古くは妖怪、付喪神。森羅万象畏怖の念や長年使用した道具にも魂が宿ると考えるなど、わからないものを視覚的に具現化して理解しようとしたり、心の拠り所にしたり。西洋のモンスターと違って怖いだけではなく、可笑しみや親しみが混ざっているのも特徴です。八百万の神がいるとされるので何がいても OK。キャラ化することは「腑に落ちる」とか「落ち着く」行為なのかもしれません。現在では、マンガ・アニメ・ゲームなどを舞台に百花繚乱、獅子奮迅の大活躍。文具やグッズ、ファッションなどあらゆる所に展開され、キャラクターがついていないものを探すほうが大変なぐらいの日常です。

お三方ともこのような日本の風土で生活していればこそ、見事にキャラ化してくださいました。

単にカワイイ、カッコいいだけでなく、クセがあったり、負の部分が含まれていたり清濁併せ持っている「腐敗」と「キャラ」。両者に共通する魅力は、そんな多面性や懐の深さにあるのかもしれません。

キャラクター作成のための参考書籍

1. 『テヅカ・イズ・デッド ひらかれたマンガ表現論へ』（講談社）伊藤剛
2. 『小池一夫のキャラクター新論 ソーシャルメディアが動かすキャラクターの力』（小池書院）小池一夫
3. 『キャラクターメーカー 6つの理論とワークショップで学ぶ「つくり方」』（アスキー・メディアワークス）大塚英志
4. 『くまモンの秘密 地方公務員集団が起こしたサプライズ』（幻冬舎）熊本県庁チームくまモン

〈キャラ制作について教えてくれた人〉

小川剛（おがわ・つよし）

京都精華大学マンガ学部 マンガ学科 キャラクターデザインコース 准教授。京都国際マンガミュージアム／国際マンガ研究センター研究員、崇城大学デザイン学科マンガ表現コース准教授を経て現職。「マンガ表現 × デザイン」をキーワードに企業・自治体からのイラスト、キャラクターデザイン等も制作する。



Figure 12. 小川さん近影。

〈キャラ製作者〉

わけわかめ

YouTube 番組『ゆるふわ生物学』のメンバー。農学が専門。品種改良のための植物の形態の計測や遺伝解析をしている。東京大学で博士（農学）を取得。https://twitter.com/wakewakame_yrfw

石橋友也（いしばし・ともや）

アーティスト。生物学をバックグラウンドに、品種改良種や外来種、人工知能などの関心に基づいた作品制作を行う。最近では川から拾ったゴミで顕微鏡をつくらうとしている。

metaPhorest（早稲田大学生命美学プラットフォーム）所属。IAMAS 博士後期課程在学中。
<https://www.shibashiishibashi.com/>

細谷祥央（ほそたに・しょう）

『文化と生物学』編集メンバー。北海道大学理学院自然史科学科修了。専門分野は食肉目の分子系統地理学。現在は、とある研究機関の広報を務める。